

昆虫類の種分化

小笠原の昆虫類は、種数は少ないものの、固有種率が高いことが大きな特徴である。トンボ類は 12 種の記録があるが、定着しているものは 7 種と考えられ、その中の 5 種までが固有種であり、固有属も 2 属が認められる。甲虫類では、ハナノミ科既知種 20 種の固有種率が 70% (固有亜種も含めると 90%) であるのを筆頭に、カミキリムシ科やタマムシ科も固有種率は高率に及ぶ。固有属もいくつか知られており、中には諸島内で種分化を成し遂げたものもあり、オガサワラカミキリ属やオガサワラヒメカタゾウムシ属がその代表例といえる。これらは祖先が小笠原に進出後に放散現象を起こした可能性が高い¹。小笠原に生息するゾウムシ類に関しては、分類体系の整理が近年進められており、その結果ゾウムシ科は 63 種のうち 50 種が固有種となり、約 80% と高い固有種率を示す²。今後 DNA 解析を実施し、種の起源等の種分化の過程に関する研究も進められる予定である。

表 昆虫類の種分化事例

対象種群	種分化現象	出典*
オガサワラトラカミキリ種群	オガサワラトラカミキリ種群は、髙島列島にムコジマトラカミキリが、父島列島、母島列島にオガサワラトラカミキリが分布し、火山列島にミナミイオウトラカミキリが分布する。後種は、南硫黄島と北硫黄島とで亜種分化を生じている。	1
オガサワラキイロトラカミキリ種群	オガサワラキイロトラカミキリ種群は小笠原群島だけに知られているが、髙島産は独立種ムコジマキイロトラカミキリとされ、オガサワラキイロトラカミキリは父島列島と母島列島で軽微ながら亜種的な差を生じているばかりか、父島列島においては父島と兄島とで微差ながらも斑紋差が認められるほどである。	1
ヒメカタゾウムシ属	ヒメカタゾウムシ属 (<i>Ogasawarazo</i>) は、7 種 1 亜種に分化している。母島列島産 4 種のうち 3 種は異所的に分布しており、母島とその属島で分化が起こったものと考えられる。	2

出典*1：高桑正敏 (2004), とくに昆虫類を例とした小笠原の生物相の特性、および人為によるその変革, 神奈川博調査研報(自然), (12):5-12 をもとに神奈川県立生命の星・地球博物館 苅部治紀学芸員加筆

2：九州大学森本桂名誉教授ヒアリング

¹高桑正敏 (2004), とくに昆虫類を例とした小笠原の生物相の特性、および人為によるその変革, 神奈川博調査研報(自然), (12):5-1

²九州大学森本桂名誉教授ヒアリング

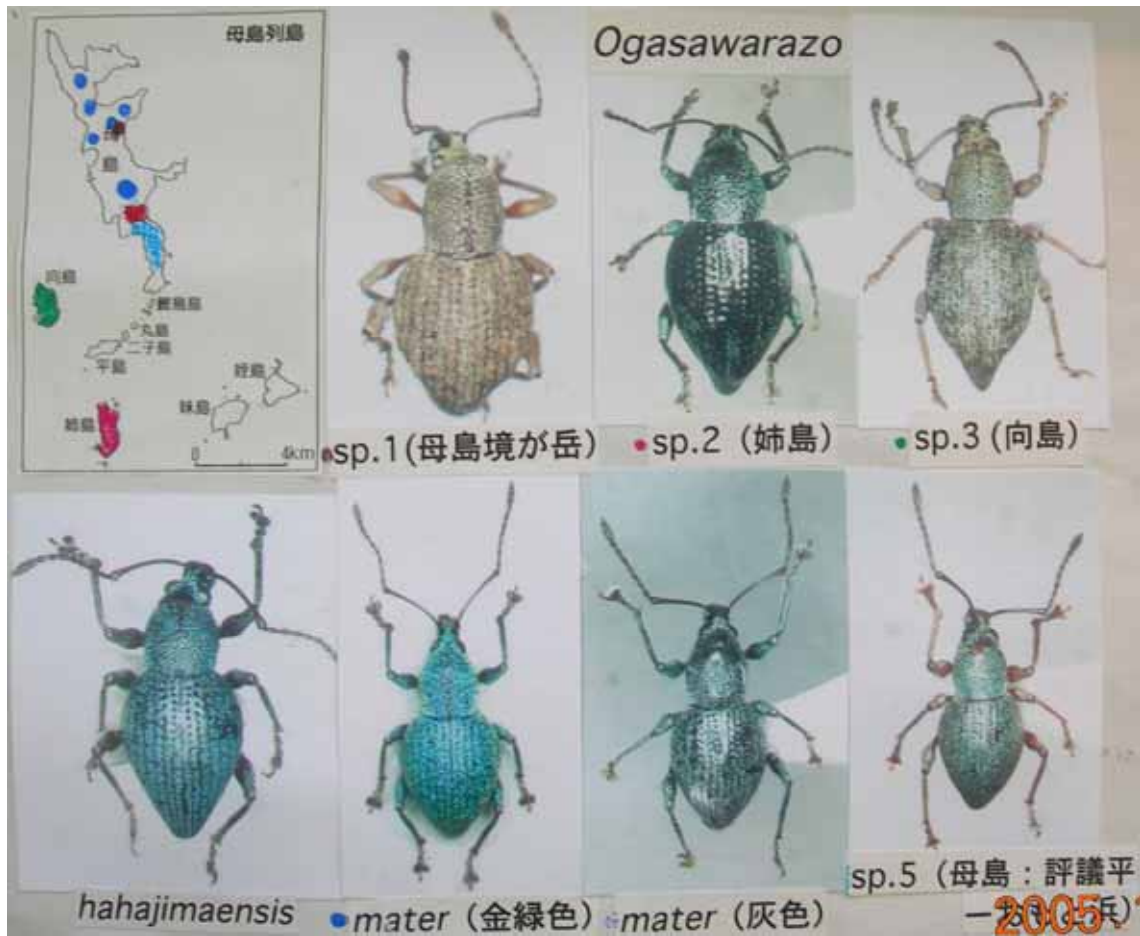


図 母島列島におけるヒメカタゾウムシ属の分布

資料：九州大学森本桂名誉教授作成